

# 教職課程履修学生への指導体制構築と今後の課題

## — 2022～2023年度の実践報告 —

小嵯 麻由

### はじめに

本学教職教育センター教職課程では、教職課程履修学生に対する支援と指導のため、2019年度より様々な取り組みを行ってきた。2019年度から2021年度までの3年間については『教育開発ジャーナル』第13号で報告を行った<sup>1</sup>。本稿では2022年度・2023年度の実践内容について報告する。なお「サポート室」とは本学の教職教育センターに置かれている教職教育サポート室、「指導員」とはサポート室に曜日ごとに交替で勤務している教職教育サポート室指導員を指すものとする<sup>2</sup>。

## 第1章 2022年度・2023年度 教職教育センター教職課程の実践

### 第1節 2022年度・2023年度に取り組むべき課題

前出『教育開発ジャーナル』第13号の2021年度の報告で示したように、教職教育センター教職課程の業務内容は以下の「A 教職履修学生への指導に関するもの」「B 環境整備に関するもの」「C 教職課程に関するもの」のA～Cに整理できる。

この項目ごとの概要について、2021年度と比較するかたちで2022年度～2023年度の取り組みを示す（表1～3）。

表1. A 教職履修学生への指導に関するもの

	内容	2021年度の具体的な実践	2022年度の具体的な実践	2023年度の具体的な実践
A1	指導員の共通理解	会議全体の見直し、会議の回数を削減、内容の精選 遠隔会議システムなどの積極的な利用	原則として遠隔会議システムを利用、必要に応じて対面会議を実施	会議の時期や回数がある程度固定されてきた。会議の内容によって、対面開催か遠隔で行うかを選択して実施
A2	指導員によるメンター制度	3、4年次生に対して年度当初から実施	3、4年次生に対して年度当初から実施	同左
A3	教職課程履修学生向け講座の実施	講座に参加する学生の人数を増やす工夫 対策講座の実施時期の見直し、内容の充実	講座に参加する学生の人数を増やす工夫 対策講座の実施時期の見直し、内容の充実	同左

教職課程履修学生への指導体制構築と今後の課題

A4	広報活動の実施	定期刊行物として年1回発行	定期刊行物として年1回発行	定期刊行物として年1回発行 教職課程や教職教育サポート室のプロモーションビデオ作製
A5	教員採用試験受験者支援	より具体的、直接的に教員採用試験に対応した指導 教員採用試験を受験した学生の受験レポートを蓄積	より具体的、直接的に教員採用試験に対応した指導 教員採用試験を受験した学生の受験レポートを蓄積	対策講座の内容の充実 新規講座、講義の実施 集団討論練習前倒し
A6	教職課程履修学生自助組織の支援	指導員の勉強会を実施し自助組織につなぐ	指導員の勉強会を実施し学生による自助組織につなぐ 全学教育推進機構研究開発助成金による『教職ハンドブック』作成	指導員の勉強会活発化 学生の自助組織活発化 『教職ハンドブック』の活用、2024年度より教職教育センター予算で発行
A7	卒業生教員の会の発足	検討する	検討する 8月の講座に卒業生が数名参加	検討する 8月の講座で「卒業生教員を囲む会」を実施
A8	ICT活用授業の指導	学習支援システムを利用した模擬授業練習の実施	サポート室用デバイス購入 指導員の研修会実施	デジタル教科書の購入・整備 指導員の研修会実施

表2. B環境整備に関するもの

	内容	2021年度の具体的な実践	2022年度の具体的な実践	2023年度の具体的な実践
B1	模擬授業のできる教室の設置	KPC2のサポート室、学習室の利用促進	KPC2のサポート室、学習室の利用促進	両キャンパスサポート室、学習室の利用促進
B2	サポート室の環境整備	指導員の要望と学習指導要領改訂に合わせた教科書発注	指導員の要望と学習指導要領改訂に合わせた教科書発注	指導員の要望に応じ図書を発注
B3	指導員の出勤時間帯の変更	学生の利用実態に合わせて指導員の勤務を検討	特に変更なし	KACサポート室に元栄養教諭指導員が常勤
B4	教育委員会との提携強化	神戸市教育委員会の学内説明会年1回、兵庫県教育委員会の学内説明会年2回 神戸市立学校学生スクールサポーター制度の活用推進	神戸市教育委員会の学内説明会年1回、兵庫県教育委員会の学内説明会年2回 神戸市立学校学生スクールサポーター制度の活用推進	兵庫県教育委員会の学内説明会年2回 神戸市立学校学生スクールサポーター制度の活用推進、事前面接の徹底
B5	教職教育年間行事の見直し	年間行事の確定、関係者周知、広報活動	年間行事の確定、関係者周知、広報活動	年間行事の遂行 新しい企画の提案、試行
B6	指導員・教職担当教員の共通理解	教職教育サポート室懇談会の開催 教職教育センター所長による指導員との面談実施	教職教育サポート室懇談会開催 教職教育センター所長による指導員との面談実施	教職教育サポート室懇談会開催 教職教育センター所長による指導員との面談実施(年2回)
B7	ICT環境の整備	必要な機器やシステムの購入に向けて予算化	必要な機器やシステムの購入に向けて予算化	同左

表3. C 教職課程に関するもの

	内容	2021年度の具体的な実践	2022年度の具体的な実践	2023年度の具体的な実践
C1	高等学校社会科教員の採用試験へ対応したカリキュラム改訂	学部長懇談会への上奏	検討する	検討する
C2	教職課程希望者の絞り込み	検討する	検討する	教職課程履修終了予定の4年次生に対する意識調査実施
C3	神戸学院大学附属中学校・高等学校との連携強化	ICT活用授業の紹介、模擬授業練習会などに、神戸学院大学附属中高の現職教員を招聘	ICT活用授業の紹介、模擬授業練習会などに、神戸学院大学附属中高の現職教員を招聘	教職実践演習の授業の一環として神戸学院大学附属中高の授業見学
C4	ICT活用指導能力育成に向けた実践	教職課程の授業や教職教育センター主催の教員採用試験対策講座などで勉強会を開催	教職課程の授業や教職教育センター主催の教員採用試験対策講座などで勉強会を開催	指導員のICT研修実施 教員採用試験対策講座のなかでICT関連講座を実施

## 第2節 実践の詳細

### 1. 「A 教職履修学生への指導に関するもの」に係る実践

#### (1) 遠隔対応と対面を並行して使用

2020～2021年度のコロナ禍では、遠隔対応が迫られたが、2022年度以降は遠隔の活動を適切に行うようにした。例えば指導員同士の連絡、教職教育センターから教職履修学生への連絡や採用試験対策講座の申し込みなどは2022年度以降も教育支援サービス manaba を積極的に活用した<sup>3</sup>。

#### (2) 「A-1 指導員の共通理解」

全学教育推進機構教職課程の専任教員と指導員は、「教職教育サポート室懇談会」の名称で、年4回打合せを行った。このうち4月は教職教育サポート室等協議会と合同で実施した。ただし2022年度は『神戸学院大学 教職ハンドブック』執筆・作成のために別の日程で打合せを行った<sup>4</sup>。

#### (3) 「A-2 指導員によるメンター制度」

教職を履修している3年次生と4年次生に対して年度当初からメンター制度を実施した<sup>5</sup>。4年次生の採用試験や教育実習の相談を優先するため、4年次生は4月から、3年次生は5月末から原則対面で面談を行った。

#### (4) 「A-3 教職課程履修学生向け講座の実施」

この項目については第1章 第3節で詳細を述べる。

#### (5) 「A-4 広報活動の実施」

2022年度、2023年度とも12月上旬に教職教育センター広報誌を1,500部発行した。2023年度末には、広報誌以外に、卒業を迎える教職履修4年次生数名が中心となり、教職課程のプロモーションビデオを作製してくれた。次年度以降活用していく。

(6)「A-5 教員採用試験受験者支援」

①教員採用試験受験予定者に対するサポート

支援すべき学生の人数や個人の特定のため、4月、4年次生に対して教員採用試験を受験有無をmanaba上のアンケートで提出させ、願書用小論文添削指導などを行った。2022年以降の傾向として、大学推薦による教員採用試験の出願が増え、進路選択に悩む学生の相談などが増加している。

②教育実習に向けての指導

教育実習に行く前に実習中に扱う教材の研究や指導法の助言などを行った。

③大学院進学指導

本学の大学院に進む学生のほか、兵庫教育大学大学院に進学する学生が毎年数名いる。学部の学びとは異なる分野を志望する学生が多く志望理輔書作成に苦勞する学生が散見された。

④早期受験、教採前倒しへの対応

教員採用試験の日程が全国的に早まってきている。これに伴い、2023年度は集団討論の練習を2月の模擬授業練習会で行うなど、指導の時期を早めた。

(7)「A-6 教職課程履修学生自助組織の支援」

サポート室各指導員が独自の方法で熱心に学生指導を行っている。このため、その時間を指し目的意識を持って集まってくる学生が増えてきた。また2022年度神戸学院大学教育改革助成金を得て作成した『神戸学院大学 教職ハンドブック』を2023年度の教職課程の様々な場面で活用し、学生の教職に関する意識向上を図った。

(8)「A-7 卒業生教員の会の発足」

卒業生教員の会発足を見据えて、まずは8月の対策講座のなかに「卒業生教員を囲む会」という時間を設定し、数名の卒業生教員に来てもらい、座談会を開催し、在学生と情報交換した。

(9)「A-8 ICT活用授業の指導」

2022年8月の対策講座のなかで、教科書会社2社にデジタル教科書を紹介してもらった。2023年2月の対策講座において本学附属中高の現役教員による「ICT活用授業」の講演を実施した。2023年8月の対策講座ではデジタル黒板のデモンストレーションを実施した。2023年9月のサポート室懇談会において指導員を対象にデジタル教科書の動作確認、管理と使用について研修を行った。2024年2月の対策講座では現役中高教員を招聘し、「ICT活用授業」の講演を実施した。

## 2. 「B 環境整備に関するもの」に係る実践

(1)「B-1 模擬授業のできる教室の設置」

KPC2サポート室内の学習室、KAC6号館3階模擬授業教室などを積極的に利用し、模擬授業練習を行う学生が増えてきた。専任教員や指導員の指導のもと丁寧な模擬授業指導が行われている。

(2)「B-2 サポート室の環境整備」

指導員と専任教員で、サポート室に配架すべき書籍の選定を行い発注した。2023年度末にパンフレット用のラックを購入し、自治体の採用試験資料などを整理して展示できるようになった。

(3)「B-3 サポート室相談員の出勤時間帯の変更」

学生のサポート室利用実態に合わせて指導員の勤務時間を検討し、周知徹底した。また、2023年度より対面勤務できる元栄養教諭の指導員が着任した。

(4)「B-4 教育委員会との提携強化」

神戸市教育委員会、兵庫県教育委員会採用担当が来校または Zoom で採用説明会を実施した。また神戸市が行っている学生スクールサポーター制度に参加する学生は、2022年度は21名、2023年度は20名いた<sup>6</sup>。新規にこれに参加する学生に対して教職課程専任教員で事前面接を行った。

(5) 「B-5 教職教育年間行事の見直し」

2021年までに、サポート室の行事日程や内容を立案、改善しながら実施してきた。これにより年間行事がほぼ確定し事前に日程を組むことができるようになった。2022年度、2023年度は細かい見直しや充実を図った。また学生の意見も取り入れ、新しい企画も実施した。

(6) 「B-6 指導員と教職担当教員との共通理解」

教職教育センターの打合せは内容により対面、および遠隔で行った。2022年度センター所長が交替したこともあり、教職教育センター所長と指導員との個人面談は年2回実施した。

(7) 「B-7 ICT 環境の整備」

2023年度デジタル教科書を購入し、PCにインストールするなど活用できるよう整備した。専任教員、指導員に使用方法を周知すべく研修を行った。

**3. 「C 教職課程に関するもの」に係る実践**

「C-1 高等学校社会科の教員採用試験へ対応したカリキュラム改訂」「C-2 教職課程希望者の絞り込み」については具体的な動きは作れていない。2023年度末に教職を履修して卒業する学生に教職履修に関するアンケートを実施した。今後分析を行う予定である。「C-3 神戸学院大学附属中学校・高等学校との連携強化」としては、教職の授業の一環として附属中高の授業を見学したり、対策講座に教員を招聘したりした。「C-4 ICT 活用指導能力育成に向けた実践」としては、指導員に対する ICT 研修、対策講座のなかの ICT 関連講座を実施し、ICT 活用について検討した。

**第3節 「A-3 教職課程履修学生向け講座の実施」詳細**

教職教育センター主催の特別講座として「教員採用試験1次対策講座」などの4講座を開いた。これらの講座への参加は学生の希望による自主的な申し込みによる。また、講座という規模ではないが、新しく教職教育サポート室ミニイベント「教員採用試験合格者を囲む会」を開催した。

**1. 教員採用試験1次対策講座**

2022年度は、遠隔会議システムを使った遠隔指導と対面での指導を並行して実施したが、遠隔で参加する学生はいなかったため、2023年度は対面のみで指導を行った。また2023年度は、当初両キャンパスごとに実施する予定であったが、KPCの参加者が少なかったため、両キャンパス合同で指導を行った。指導内容は、1次試験の内容確認、受験の心構え、集団討議、個人面接、集団面接、場面指導などである。参加人数は2022年度がのべ33名、2023年度がのべ40名であった。

**2. 教員採用試験2次対策講座**

2～4年次生および院生、科目等履修生、卒業生を対象に、8月3日間「教員採用試験2次対策講座」を実施した。内容は、教員採用試験2次対策特訓講座（「個人面接」「場面指導」「模擬授業」「実技試験」など）や小論文特訓講座、模擬授業練習である。参加人数は2022年度がのべ70名、2023年度がのべ78名であった。

**3. 学力養成講座**

2～4年次生および科目等履修生を対象に、両キャンパス別々に科目ごと3日～4日実施した。1

次専門科目や一般教養にも対応できるように、学生自身が取得する予定の教科だけでなく、他教科の講座も受講できるようにした。2022年度の申し込み数は、KPC：11名、KAC：20名 合計31名、2023年度申し込み数はKPC：14名、KAC：29名 合計43名であった。

#### 4. 教員採用試験対策講習会及び模擬授業練習会

2～4年次生および院生、科目等履修生を対象に、2月「教員採用試験対策講習会及び模擬授業練習会」を実施した。内容は教員採用試験対策講演（外部講師または指導員による講座）、合格者座談会、ICT活用授業勉強会（現役中学校・高等学校教員によるICT活用授業の講演）、模擬授業練習などである。2023年度は教員採用試験の日程前倒しを受け、集団討議のデモンストレーションと練習会の時間を設けた。2022年度の参加人数は合計44名、2023年度は合計64名が参加した。

#### 5. サポート室ミニイベント「教採合格者を囲む会」

2023年度の新しい企画として、教職履修者対象を対象に教員採用試験現役合格者による教員採用試験対策の説明会「教採合格者を囲む会」を実施した。両キャンパスで別々に行い、4～5名の合格者と数名の教職履修学生が集い、情報交換を行った。この会は学生からの発案で実施した。

## 第2章 教職教育センター教職課程 2022年度・2023年度の成果

サポート室や教職履修学生に係るデータと2023年度末に指導員から寄せられた年度末反省アンケートの記述をもとに2022年度から2023年度までの活動について考察する。

### 第1節 「A 教職履修学生への指導に関するもの」

#### 1. サポート室の活性化

教職教育センター教職課程に係る教職員と指導員が連携して活動をすすめ、予定していた活動を全て実施できた。どの対策講座もこれまでを上回る人数の学生が集まり、増加傾向にある。特筆すべきはサポート室の利用者数で、日常的にサポート室を居場所としている学生が増えている。2022年度KPCが537名、KACは1376名。2023年度はKPCが764名、KACは1545名がサポート室に来室し、両キャンパスとも大幅に増加した。詳細は表4、表5の通りである<sup>7</sup>。

表4. 2022年度 教職教育サポート室利用状況 相談及び指導内容別

来室目的別	KAC							KPC2						
	1年次	2年次	3年次	4年次	既卒等	小計	1年次	2年次	3年次	4年次	既卒等	小計		
1 教採対策授業等	0	36	117	133	4	290	16	62	97	4	0	179		
2 面接練習	0	1	24	58	2	85	0	2	0	0	0	2		
メンター面談	0	6	16	2	0	24	0	0	0	0	0	0		
3 生徒指導インタビュー	0	41	0	0	0	41	0	54	8	1	1	64		
特別活動インタビュー	0	1	0	0	0	1	0	23	3	1	0	27		
4 教育実習関連	0	0	13	63	4	80	0	2	0	14	0	16		
5 模擬授業	1	303	103	31	9	447	1	3	103	0	0	107		
6 指導案作成	0	15	6	0	0	21	0	10	18	3	1	32		
7 進路相談	2	2	15	13	3	35	9	5	3	1	0	18		
大学院対策	0	0	2	7	2	11	0	0	2	1	2	5		
免許等取得相談	8	1	3	0	0	12	6	4	2	4	0	16		
8 その他相談	1	22	23	40	10	96	0	4	0	0	0	4		
9 自習学習	0	18	41	170	4	233	1	9	49	3	5	67		
総計	12	446	363	517	38	1376	33	178	285	32	9	537		

表5. 2023年度 教職教育サポート室利用状況 相談及び指導内容別

来室目的別	K A C						K P C 2					
	1年次	2年次	3年次	4年次	院科目	小計	1年次	2年次	3年次	4年次	院科目	小計
1 教採対策授業等	5	66	197	106	4	378	0	75	185	102	0	362
2 面接練習	0	0	2	65	1	68	0	0	1	8	1	10
メンター面談	0	0	39	0	0	39	0	1	3	0	0	4
3 生徒指導インタビュー	0	21	3	0	0	24	0	18	0	0	0	18
特別活動インタビュー 制度論を含む	0	0	0	0	0	0	0	83	0	0	0	83
4 教育実習関連	0	1	8	62	0	71	0	12	17	15	0	44
5 模擬授業	0	71	111	8	1	191	0	50	4	15	0	69
6 指導案作成	2	9	23	8	0	42	0	1	2	24	0	27
進路相談	8	20	23	54	4	109	0	0	13	8	0	21
7 大学院対策	0	0	1	5	0	6	0	2	22	1	0	25
免許等取得相談	1	1	2	1	0	5	0	0	0	0	0	0
8 その他相談	0	9	7	18	0	34	0	4	5	18	0	27
9 自習学習	0	108	301	161	8	578	0	3	9	62	0	74
総計	16	306	717	488	18	1545	0	249	261	253	1	764

指導員からは「サポート室に学生が集まり出した。まずはサポート室に来ること。」「4年生が3年生に経験等を伝えている姿がとても良い。空き時間にサポート室に顔を出すことから始まり、顔を覚えていい関係が生まれてきた。」「サポート室において4年生が下級生を指導する機会が多くなった。下級生は4年生が実際に採用試験に向けてどのような勉強をしているのか肌で感じ取れていると思う。」「模擬授業が日常化した。教科教育法での模擬授業に向けて、サポート室で先に先輩に見てもらおう雰囲気が出てきた。」「個々の指導員の先生が自主勉強会を開いておられ、その運営も個性的でよい。」などの意見が出た。指導員の学生に対する働きかけが、学生の積極的なサポート室利用を促し、学年やキャンパスを越えた交流の場になっていることがわかる。

## 2. 2022年度・2023年度教員採用試験合格実績

2019年度の現役合格は6名、2020年度1名、2021年度3名、2022年4名と低迷が続いていた。しかし、2023年度は現役合格9名、卒業生も合わせるとのべ14名の合格者が出た。2019年から始めた教職課程の改革がようやく数字に表れてきたといえる。

### (1) 2022年度教員採用試験合格者

2022年度、教職を履修していた4年次生および科目等履修生は65名で、教員採用試験の合格実績および教育大学大学院進学実績は以下の通りである。

#### ① 1次合格者（のべ12名 ただし卒業生のべ4名を含む）

兵庫県4名（中学国語3、中学社会1）・神戸市3名（国語2うち1名は大学推薦、社会1）

豊能地区2名（中学国語1大学推薦、中学社会1）・その他各1名（大阪市中学国語、堺市中学社会、福井県中学社会、福岡市中学国語）

#### ② 2次合格者（のべ7名 ただし卒業生のべ2名含む）

兵庫県3名（中学国語3）、その他各1名（神戸市中学国語、豊能地区中学国語、福井県中学社会、福岡市中学国語）、このほか、期限付き任用教員、講師など12名

#### ③ 私立中高など

私立中高採用3名（国語1、社会2、英語2）

#### ④ 教育大学大学院進学者

兵庫教育大学大学院（生活・健康・情報系教育コース、社会系教科マネジメントコース、小学校教

員養成特別コース3年制コース 各1名)

(2) 2023年度教員採用試験合格者

2023年度、教職を履修していた4年次生および科目等履修生は67名で、教員採用試験の合格実績および教育大学大学院進学実績は以下の通りである。

① 1次合格者 (のべ19名 ただし卒業生のべ5名を含む)

兵庫県7名(中学国語3、中学社会3、高校地歴公1)、神戸市3名(国語1、社会1、小学校1)、福岡県4名(中学社会1大学推薦1次免除、中学英語2大学推薦1次免除、小学校1) その他各1名(大分県高校地歴公民、愛媛県中学社会、鳥取県中学国語、石川県中高国語、北海道小学校)

② 2次合格者 (のべ16名 ただし卒業生のべ7名を含む)

兵庫県5名(中学国語3、中学社会2)、神戸市2名(国語1、小学校1)、福岡県4名(中学社会1、中学英語2、小学校1) その他各1名(愛媛県中学社会、石川県国語、北海道小学校、東京都社会、大阪市栄養)、このほか期限付き任用教員、講師、など9名、学校事務職員1名

③ 私立中高、国立大学法人など

私立中高採用3名(国語2、社会1)

④ 教育大学大学院進学者

兵庫教育大学大学院(社会系教科マネジメントコース2名、小学校教員養成特別コース3年制コース2名)

指導員からは、「組織的な講座の体制が年々整ってきており、取り組みの成果が合格者数の増加として表れてきている。」「サポート室利用者の激増と、その結果が採用試験合格者増につながった。」などの意見が出た。様々な取り組みや学生同士の交流が成果につながっている。

### 第3章 教職教育センター教育課程 今後の課題

#### 第1節 「A 教職履修学生への指導に関するもの」に係る課題

##### 1. 教員採用試験前倒し、3年生早期受験への対応

2024年4月26日、文部科学省は、公立学校教員採用選考について試験の実施日を前倒しするよう通知を出した<sup>8</sup>。全国的な教員不足を受け、多くの教師志願者を確保するねらいがある。すでに2024年度実施の兵庫県教員採用試験は例年より2週間前倒しの6月15日になっているが、来年度はそこからさらに1カ月前倒しの5月11日を基準にするよう通知している。また同じ文書で、3年生早期受験の推進を含む、採用試験の複数回実施を求め、質の高い教師人材確保を呼び掛けている。教員採用試験をめぐる動きは非常に激しく、学生への情報提供や支援は今後ますます必要である。願書出願の相談などが前年度末になるであろうし、1次対策の持ち方も検討すべきだ。集団討議の練習は学生1人では取り組めない。人数を集めて実施したい。その時期や方法を工夫すべきである。さらに3年次生への支援も視野に入れる必要がある。2023年度3月に卒業した教職履修学生に、本学教職課程を履修に関するアンケートを分析し本学の学生の傾向やニーズを把握したい。

##### 2. 卒業生に対する支援

現役合格する学生が増え、卒業後講師として教壇に立つ学生も増加している。逆に教壇に立ってから現場での対応に悩み、教職専任教員や指導員に連絡をとってくる卒業生も出てきている。教採の倍率は全体的に低下しているものの、卒業後、講師などをしながら教職を目指す本学卒業生も少

なくない。在学の教職履修者に情報を提供するためにも、卒業生教員を支えるためにも、「卒業生教員の会」の必要性を感じる。まずは8月や2月に実施する特別講座に参加してもらい、遠隔で卒業生の指導を行う、卒業生教員を訪問する、などについて検討し、ゆくゆくは「神戸学院大学卒業生教員の会」(仮)のような組織立ったものにしていきたい。

## 第2節 「B 環境整備に関するもの」に係る課題

### 1. 学内外の連携の強化

地元の教育委員会採用担当が来校しての説明会に学生の参加が非常に少ない。一方で、過去に複数の学生が受験した地方自治体から学内で説明会を開きたいという申し入れがきている。今後学生の受験動向もみて説明会のあり方も検討する。教職教育センター教職課程に係る教職員と指導員の連携は以前よりすすんできた。多くの先生に関心を持っていただけるよう働きかけを行っていく。対策講座の様子などを大学広報に情報提供し、大学HPなどで紹介することも考えたい。

### 2. ICT環境の整備

兵庫県の教員採用2次試験では、これまでの教科に加え、2022年度に中学社会科、高校地歴公民の受験者に、2023年度は中高国語科受験者に、ICTを使った模擬授業を課した。今後他教科にも広がるという。このように兵庫県の教員採用試験受験者には、ICTを活用した模擬授業の練習が必要である。サポート室でも、ICT機器を整備してきたが十分活用するまでには至っていない。またKACでは1号館を新設し、教職教育サポート室はそこに移設する予定である。これに伴い新しいサポート室のICT環境について検討する必要に迫られると考えられる。

## 第3節 「C 教職課程に関するもの」

### 1. 教職課程の充実

現在本学で「中一種免(社会)」や「高一種免(公民)」「高一種免(福祉)」のみの認定を受けている学部等が「高一種免(地理・歴史)」「中一種免(社会)」の免許も取得できるよう、学部間に理解を求め、教務教職担当職員とともに具体的に検討をすすめたい<sup>9</sup>。また、教員採用試験で複数免許の優遇措置を行う自治体も多く、学生の資質向上や採用試験を有利にすすめるためにも将来的には学校図書館司書教諭資格の課程、国際バカロレア教員養成課程などを検討したい。

### 2. ICT活用指導能力の育成

2024年度から3年次配当の科目として「ICTを活用した授業」を新たに開設する予定である。この講座では中高の授業においてICTをどのように活用すればよいかを学ぶ。またこの科目は中高免許のためには必修科目である。このため、サポート室で提供するICT関連の講座もこの科目と重複しない内容で実施する必要がある。

## 第4節 その他の課題

### 1. 他大学との情報交換・連携

本学は神戸親和大学と、2021年度大学同士で連携協定を結んだ。神戸親和大学は教員養成に力を入れており、本学在学学生も神戸親和大学の授業を履修し小学校免許取得ができる業務提携を行っている。今後何かしら具体的に連携できることを検討したい。

## 2. 長期的・継続的な課題

検討すべき長期的・継続的課題として、HPの活用や卒業生教員の会の発足がある。

## おわりに

ここ5年の改革が実を結び、サポート室の活性化が教員採用試験合格者の増加につながっている。卒業生が全国各地の教壇に立ち、教師として活躍することは教員養成課程を持つ大学としての使命であり、何よりの社会貢献である。一方で昨今の教育をめぐる変化に対応する必要性に迫られている。さらに、教職必修科目は増加し続けており、教職履修学生のカリキュラム・オーバーロードが議論されている。学生に過度な負担を強いることが無いよう配慮すべきであろう。今後もこれらの課題に取り組み、教員志望の学生に採用試験を通過できる知識や、資質・能力を身につけさせ、学生のキャリア形成を支援し、教員として力強く踏み出せる人材の育成を行っていききたい。

## 注

- 1 山下恭（2023）「教職課程履修学生への指導体制構築と今後の課題－2019年度・2020年度実践研究－」『教育開発ジャーナル』13、55-64  
小嵯麻由（2023）「教職課程履修学生への指導体制構築と今後の課題－2021年度実践研究－」『教育開発ジャーナル』13、35-44
- 2 教職教育サポート室は、本学のポートアイランド第2キャンパス（KPC2）1号館1階と、有瀬キャンパス（KAC）6号館5階に1部屋ずつ設置されており、教職教育サポート室指導員という教員経験者が曜日ごとに交替で常時勤務している。
- 3 開発元の（株）朝日ネットのWebサイトによれば、manabaとは「課題管理」や「情報発信」機能により授業の事前・事後の学びと、授業中の学びを支援するクラウド型の教育支援サービスとある。本学の教職教育センターで導入し活用している。
- 4 小嵯麻由（2024）「2022年度教育開発助成金活動報告 教職課程を学ぶ学生のための『教職ハンドブック』新規作成」『教育開発ジャーナル』14、81-87
- 5 「メンター制度」とは本学教職教育サポート室指導員による学生支援で、1人の学生に担当指導員が1人つき、いわゆる学校における担任のような役割を果たすというものである。
- 6 神戸市教育人材センターのWebサイトによれば、神戸市立学校学生スクールサポーター制度は、協定している大学と連携して、教員を目指す大学生・大学院生・短期大学生を、神戸市立の小・中・義務教育学校に配置し、学校教育活動を支援するとともに、将来教員となる人材の自覚や資質を高め、神戸の教育力向上に資することを目的としている制度である。
- 7 表6、表7の作成は、教職教育サポート室指導員の田阪義英先生にご尽力いただいた。
- 8 文部科学省（2024）「令和8年度教員採用選考試験の実施に関する留意点等について」文部科学省総合教育政策局通知（最終閲覧 2024, 5, 28）  
[https://www.mext.go.jp/content/20240426-mxt\\_kyoikujinzai01-000011998\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240426-mxt_kyoikujinzai01-000011998_4.pdf)
- 9 2021年度、教育職員免許法施行細則及び教職課程認定基準等の改正が行われ、中学校及び高等学校の教科に関する専門的事項、いわゆる「教科専門科目」に関する科目について、他学科等の教職課程の授業科目として認定されている科目と共通開設が可能となった。